

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 23 章 39～53 節＞

1 主イエスの御受難の箇所を読む時に心得ておくべきこと。

今週と来週はイエス様の御受難の箇所を読みます。ここから読み取るべき大事なことは何でしょうか？ それは「人間の罪深さ」と「イエス様を通して示される神様の憐れみ深さ」です。

2 他の福音書に比べて短い箇所は、大事なことがより分かりやすい。

今日の箇所はマルコもマタイも記し残しましたが、ルカが一番短い報告です。しかし、短いからこそ、そこから見えて来るものもあります。記し残したことに、ルカが「これは伝えねば」と思った大事なことを見ることができるからです。ここでは三つ挙げておきます。

3 (42) 苦難の中の祈りの手本 — オリーブ山での主の祈り。

「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」(42)。

三つの福音書すべてが記し残しています。すでに十字架にかけられる苦難を知っておられる主イエス。その苦難の苦しみを知るが故に、その苦しみに遭わないことを祈られています。しかしその最後は、神様の御旨がなりますように、で祈り終えられたのです。私たちの祈りの手本ここにあり、です。

4 (50-51) 傷つける弟子たち、その傷ついた人を癒される主イエス。

主イエスの弟子が主を思うが故に大祭司の手下に剣(38)で切りつけ、右耳を切り落としました。しかし主は「そこまで」と制して止められ、傷ついた耳を癒されたのです。神の意に背いて行動してしまう人間の罪と、その犯した罪を帳消しにして下さる神様の深い愛を知らされます。

5 (52-53) 苦難にひるまない理由 — 苦難も神の計画の中にあり！

「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのか。わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいたのに、あなたたちはわたしに手を下さなかった。だが、今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている。」(52-53)

人間の罪が力を振るうことがある、しかしそれで終わるわけではないと主は語られます。それが主の復活の出来事で示されたのです！ よってキリスト者は人間の罪より神の愛をより見つめて生きるのです！